

「試験問題戦術」

調査会代表 荒木和博

私は最近北朝鮮の拉致問題に関する情報の出し方を称してこう言っています。

北朝鮮はいい加減な情報ばかり出してくる。しかし、日本側で交渉に臨むのは学校の成績の良かったエリートばかりなので、試験問題が出てくると、どんなにいい加減な問題でもつい手が動いて問題を解こうとしてしまうのです。つまり、北朝鮮が出してくるのがいくらいいい加減な情報でも、つい真面目に検討してしまうのです。

成績が悪いと、面倒なので試験問題を引きちぎって、「こんないい加減な試験なんかできるか」と開き直るのですが、成績の良い人は昇目が空いていると、つい埋めてしまう。その間に相手は逃げていく。問題を解き終わって追いかけて、捕まえようとする、またいい加減な問題を出してくる。「こんなもの解いても仕方ない」と思いながら、日本側はつい手が動いて問題を解こうとしてしまう、という構図のように思います。

今日横田めぐみさんの骨が別人のものであるとの鑑定が出ました。私は「どうせ日本政府は時間を延ばして『鑑定不能』で終わらせるのだろう」と思っていたので、予想外の結果に驚いています。この結果は評価に値すると思いますが、問題は、そこでまた「真相究明」ということになってしまうのではないかということです。もう、いい加減に「試験問題戦術」におつきあいするのはやめて、一発平手打ちを食らわせることが必要でしょう。

これはあちこちで言っているのですが、テレビに出てくるのは家族会の方でも、この問題は「横田めぐみさんの家族がめぐみさんを取り返したくて経済制裁を求めている」「有本恵子さんのご両親が娘さんを救出したくて経済制裁を求めている」のではないのです。ご家族は一つの象徴であり、これから二度と拉致被害者が出ないようにするためには、現在とらわれている被害者をすべて救出することが必要であり、その象徴になってもらっていると考えるべきだと考えます。

繰り返しますが、横田めぐみさんをはじめとする何百人かの拉致被害者を救出する運動は、今後二度と同様の被害を起こさないため、皆さんや皆さんのご家族が何十年も引き裂かれることのないようにするための運動です。そして、そのために経済制裁が必要なのです。一人でも多くの方がこれをご理解下さいますよう、御願い申し上げます。

ところで、先日韓国に行った際、1996年(平成8年)東海岸の江陵市で座礁した北朝鮮潜水艦を見学してきました。その内容を以下のアドレスで簡単なホームページにしています。ご興味のある方はご覧いただけると幸いです。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.198]]]]]]](2004.12.10)

参考情報

以下、守る会（北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会）・RENK（救え！北朝鮮の民衆緊急行動ネットワーク）の役員をされている三浦小太郎さんからの情報です。日本のアムネスティもロンドンに負けないよう、翻訳に留まらず行動をもって北朝鮮と闘ってほしいものです。

以下はロンドンアムネスティの声明です

ここで対象になっているのは山田文明北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会代表が、上海で不当拘束された際、共に囚われた北朝鮮難民です。是非とも、何らかの形で報道に反映してください。

以下、アムネスティ日本・UA チームによる要請文の翻訳】

UA ナンバー：311/04

国際事務局発信日：2004年11月19日

AIINDEX：ASA24/002/2004

期限：2004年12月31日

翻訳担当者：(省略)

国名：朝鮮民主主義人民共和国

ケース：拷問／虐待の恐れ

対象者：Chang Gyung-chull 35歳（男性）

Chang Gyung-soo 32歳(男性) 上記男性の弟

Chang Mi-hwa 35歳（女性）彼らの従姉

上記家族3人が北朝鮮を不法に出国した罪で拘束され、北朝鮮の政治犯労働キャンプに送られる危険が差し迫っている。このキャンプの条件は過酷なことで知られている。彼らはすでに数ヶ月間、拘束されており、その間に受けた拷問や虐待によって健康を損なっているため、キャンプに移送されれば、さらに健康を害する恐れがある。

3人の北朝鮮国籍である Chang Gyung-chull とその弟の Chang Gyung-soo、その従姉の Chang Mi-hwa は、2003年8月に中国の上海で中国治安警察に逮捕された。彼らは尋問のため北朝鮮の Sinuiju 市に送還された後、咸鏡北道にある国家治安当局の拘禁施設に移送された。

2004年9月に Chang Gyung-chull と Chang Gyung-soo は、それぞれ10年の禁固刑を言い渡された。彼らはまだ咸鏡北道に拘禁されていると思われる。5年の禁固刑を言い渡された Chang Mi-hwa は自宅軟禁の状態に置かれていると思われる。彼らは皆、拘禁中に

拷問を受け、不健康な状態にあると考えられる。

この3人の家族は政治犯労働キャンプに送られる危険が差し迫っている。このキャンプは過密状態で、不衛生で、適正な健康管理が行なわれておらず、食糧も不足しており、非常に劣悪な状態だと言われている。暴力は日常的に行なわれており、拷問も行なわれ、病気や栄養失調により、多くの人たちが亡くなっている。

彼ら3人は北朝鮮における犯罪である不法出国を行なったために、このような過酷な刑罰を受けていると考えられる。

2人の兄弟の母親である Shin Nong -ai は、日本国籍をもつ朝鮮人の姉妹に会うために、1999年に中国に不法に行ったために、2000年4月に Yodok 政治犯労働キャンプで1年間過ごすことを命じられた。

背景情報

北朝鮮では食糧不足がひどいために、何万という人たちが、中国東北部へ「不法に」出国している。多数の人々が国境付近にまだ残っている。2004年10月、中国当局は中国に滞在している北朝鮮の人たちに対し、「これ以上受け入れない」という政策を採用し、北京では少なくとも62人の北朝鮮の人たちを逮捕し、強制送還した。

中国で「不法に」滞在している北朝鮮の人たちはひどい状況に置かれていて、身体的にも精神的にも、性的搾取にも弱い立場にある。また、北朝鮮から「不法に」出国したり、出国を手伝った北朝鮮の人たちは、長時間の尋問中に行なわれる拷問や虐待など、厳しい刑罰を受ける危険にも直面している。

「共和国の国境」を不法越える人に対する北朝鮮の刑罰は、kwalliso（政治犯労働区域）に最長3年過ごすこととなっている。この法律（刑法第117条）は、市民的および政治的権利に関する国際規約第12条（2）で規程している（すべての人は、自国を含めすべての国から自由に出国することができる）自国を去る権利を侵害したものであり、この規約には北朝鮮も加盟している。

詳細は、『権利の飢餓:朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）における人権と食料の危機』（AIIndex:ASA24/003/2004,2004年1月17日）を参照して下さい。

アクション：

英語、あるいは母語で以下の内容のアピールを作り、航空便航空書簡（全世界90円）、電報、ファックスなどで出来るだけ早く送って下さい。同じ内容のアピール文が後に続きます。それをご利用下さい。12月31日以降にアピールを送られる場合は国際事務局かUAセンターにお問い合わせください。

- * 北朝鮮市民である Chang Gyung-chull とその弟の Chang Gyung-soo、その従姉の Chang Mi-hwa は 2003 年 8 月に中国上海の中国治安警察に逮捕された後、拘束されていることに対して憂慮の意を表明する。
- * 明白な罪状がないのであれば即刻彼らを一条件釈放するよう求める。
- * 彼らが拘束中に拷問や虐待を受けているという報告について、十分かつ独立した公正な調査を行い、その結果を公表することを求める。
- * 拘禁中の彼らの身の安全について、至急保証するような対策を求める。
- * 北朝鮮当局に対し、単に北朝鮮を去ろうとしただけでは、だれも拘禁されたり、虐待を受けたりすることがなく、また、基本的人権に対する平和的な運動で拘束されている人々が釈放されることを求める。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.199]]]]]]](2004.12.15)

加瀬テル子さん拉致で千葉県警に告発

加瀬テル子さん拉致事件について、下記の要領で千葉県警に告発状を提出します。

日程 12月17日(金)13:00 千葉県警本部

記者会見 同日14:00 県政記者会(千葉県庁内)

これで1000番台リスト33人のうち、最後にリストに入った布施範行さんを除く32人が告訴ないし告発を行ったこととなります。布施さんについても今後の1000番台リストの追加と合わせて告発の日程を決める予定です。

年内の対応について

ゼロ番台の追加の発表を年内に行う予定です。現状では27日午後の予定ですが、詳しいことは決まり次第発表します。なお、1000番台については、現在追加で届いた写真の分析等を行っており、今回は追加の発表はしない予定です。

北朝鮮の外務省報道官声明について

「極右勢力の動きによって、朝鮮民主主義人民共和国に対し制裁が発動されれば、我々は我が国に対する宣戦布告とみなし、効果的な物理的方法で対応する」という、威勢の良い北朝鮮の報道がニュースになっていますが、同様の論評はこれまでも何度もなされており、あまり驚くにはあたりません。

北朝鮮の論評をいきなり読んだり、テレビによく出てくるあの「説教オバサン」の口調を聞くと、「何と激烈な」と思われるでしょう。しかし、彼らはいつもこんな調子で言っているのです。上記の程度なら、意訳すれば「おはようございます」という程度です。ちなみに、北朝鮮はこのところ、何度も「米国の核戦争策動に対処して強力な核抑止力を強化してきた」と言っています。要は核開発してきたということで、「我々は平壤宣言に違反しているんだぞ!」と強調しているのですが、日本政府も米国政府も反応しません。まあ「アホらしくてやってられん」というところではないでしょうか。

しかし、イラクは「何もしていない」と言っていたのにあれだけやっつけたのですから、「やってるんだぞ」というところにはそれ相応の対応が必要ではないかと思います。経済制裁位で済むなら、金正日は宣戦布告どころか、日米の寛大さに感謝の言葉の一つでも発するべきではないでしょうか。

いずれにしても、相手はヤクザと詐欺師と総会屋と一緒にやっているような体制ですから(ヤクザと詐欺師と総会屋の皆さんには失礼ですが)、こちらが怖がったり、真に受けたりするのは禁物です。そうすれば必ず相手はエスカレートしてきます。怖がっているのは、実は金正日の方だということを認識すべきです。

それと、もう一つ申し上げておきたいことがあります。家族会の皆さんが経済制裁を求めているのは、自分たちの家族を取り返すためではありません。もちろん、それも理由の一つかも知れませんが、これまで北朝鮮の体制と闘ってきて、すべての拉致被害者を取り返し、今後そのような苦しみを受ける人が出ないようにするためには、強い姿勢で臨む以外にないと確信されているからです。

本来ご家族の皆さんにこういうことで先頭に立っていただくのは申しわけないことで、私たちこそご家族に代わってもっと大きな声を出さなければならないと思います。ともかく北朝鮮には話し合いは通じません。通じる相手なら最初から拉致などしません。

第二次大戦前、イギリスのチェンバレン政権はナチスドイツに宥和政策を持って接し、結果的に戦争を招来しました。レーガン米大統領はソ連に対する対決姿勢によって戦争を防ぎ、共産党政権を崩壊に追い込みました。独裁政権から平和を守るためにどちらが有効か、火を見るより明らかだと思います。 (荒木和博)

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.200]]]]]]](2004.12.22)

記者会見について

先日のニュースでお知らせしましたが、以下の通り記者会見を行います。報道関係各位には年末のご多忙な中恐縮ですが、何とぞよろしくお願い申し上げます。なお、当日友愛会館が使えなかったため、今回は家族会事務所をお借りしました。お間違えのないようよろしくお願い申し上げます。

日時 12月27日(月)14:00～

場所 家族会事務所(千代田区飯田橋3-7-12 松野ビル5F)

飯田橋駅東口から徒歩2分

内容 ゼロ番台リスト追加発表(10人程度)

その他(情報入手状況などについての報告)

今回は1000番台(拉致の可能性の高い失踪)追加発表は行わない予定です。

発表するゼロ番台追加リストの写真の撮影及びデータ配付は当日10時頃より調査会事務所にて行います。ただし、これまでと同様報道は記者会見後にして下さいますようお願い致します。

参考情報

以下は、「北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会」(守る会)会員・依藤朝子さんのレポートです。依藤さんはデビット・ホーク著『北朝鮮 隠された強制収容所』を小川晴久・東大名誉教授と共訳されました。ソウルで開催された「北朝鮮ホロコースト展示会」は日本ではあまり報道されませんでした。北朝鮮の人権問題に関心の低い韓国としては画期的なイベントでした。以下ご参考までお知らせします。

ソウル・ホロコースト展のご報告

依藤朝子

11月8～10日、ソウルの国会議事堂横の国会議員会館や、韓国経済人会館で、北朝鮮ホロコースト展示会及び講演会がありました。

今回のイベントは、韓国でも複数の新聞などで報道され、多くの人の目に留まったようです。私が手に入れた新聞では、『朝鮮日報』10日号総合面のほかにはThe Korea Heraldの10日号3面と13日号3面でした。これ以外の複数の新聞にも載っていたと聞きました。

『朝鮮日報』は半面に大きく、中国で拘束されている崔さんの奥さんやショルテさんの写真など入りで載っていました。ヘラルド紙にも、中国大使館前でのデモの写真など入って大きく載りました。

8日は朝10時に開会式が始まり、主催の文国韓さんやスザンナ・シオルテさん、ハンミちゃんご家族、救援基金の方々、中国で拘束されている崔さんのご家族、日韓の議員のかたがた、民主化運動本部などNGOの方々が集いました。

また、黄ジャンヨプさんとハンナラ党の朴権恵党首もずっと前に立っておられました。そのほか、記者の方々が多くあつまりました。

展示場で開会式があった後、しばらく展示をみて、シオルテさんの講演を隣の講堂で聞きました。(内容は後ほど書きます)

基金の方たちは、韓国の議員さんたちに崔さん救出について訴えに行かれました。

展示場には、北朝鮮に関する各国版の本が並び、北朝鮮の教科書や本、生活用品が並んでいました。また、テレビで北のドラマをずっと流していました。壁にはとても大きなパネルや、脱北者の男の子が書いた絵を拡大したものなどがつるされていました。脱北者の潜伏生活について説明するコーナーには、潜伏中に折った数万個ほどはありそうな折り紙の鶴がつまれ、また亡くなった脱北者たちが身に付けていたジャケットやスニーカーが展示され、胸があつまりました。

そのほか、苦しんで亡くなった北朝鮮市民すべてを悼むコーナーがあり、棺に白い菊花を自由に手向けられました。

日本から、先日出版した本2冊と、守る会の『生命と人権』のセットを持って行って展示してもらいました。

講堂では、脱北者の記録映画を数本、期間中ずっと見ることができました。姜哲煥氏の民主化運動本部主催の講演会もあり、議員さんも含め、多くの人が集まりました。そこでは、先日来日した金英順さんと姜哲煥さん、安赫さんが耀徳収容所について証言をしました。

質疑応答の時間には、韓国人の人たちが論争を始めるひともありました。政府の対北朝鮮政策の違いをめぐってだと思います。

シオルテさんは、経済人会館でも講演をなさり、そこにも多くの脱北者、関係者があつまりました。黄ジャンヨプ氏、安明進氏も来てらっしゃいました。

シオルテさんは、ワシントンで北朝鮮人権法の通過に向けてアメリカ政府に働きかけてこられた方です。シオルテさんの講演の内容は、主にアメリカ人権法についてで、大体次のようなものです。

我々国際社会がやるべきことは、北朝鮮に人権問題について話すよう促すことと、その

ためのロードマップを作って北に示すこと、また中国にも送還を止めるためのロードマップを示すことです。

アメリカ国務省にも、もっと人権問題について取り組むように言わなければなりません。特に、難民キャンプのための予算や脱北者への予算をなるべく早く出すよう促さないといけません。

また、韓国の政治家にも北の人権問題についてよく知ってもらい、すべての党と一緒に取り組むよう促さなければならず、それがこの展示会の目的です。

将来、統一したら、この議事堂に南北の人たちがあつまることを願っています。

さて、もと共産圏のポーランドやチェコなどが、今一番積極的な人権擁護国となっています。韓国人も同様に、人権問題に取り組まないといけません。

アメリカ国務省が管理している予算についてですが、もらえる団体について限られるかもしれません。また、まだしばらく予算が下りないようです。でも、もらえるまで待つよりは、ビジョンを持って祈って活動を続けていってください。私たちも、これまで資金援助がないまま活動してきました。皆さんが今できることは、脱北者の団体に寄付することです。

ビジョンを持って粘り強く活動してください。

また、人権法案には、三つの影響力があります。

1、即時的な影響力

ブッシュ政府と国務省を動かす力になったこと。
脱北者の受け入れが具体化したこと。

2、短期的な見通しの影響力

特別大使、特別な会議について具体化され人権問題について活動が始められたこと。
地域的枠組みについての話し合いが具体化されてきたこと。

3、長期的な見通しの影響力

予算について。

みんなで団結しましょう。巨大な悪に対して戦うことが、北朝鮮問題に取り込むことの難しさです。

国務省は難民施設の建設は解決にならないとして、反対しています。アメリカ議会は建設に賛成しています。私は、難民が安心していられる場所を作ることが大切だと考えます。

中国が第一の選択肢ですが、非人道的なのでモンゴルに期待しています。アメリカはモンゴルに支援して働きかけられるのではないのでしょうか。直接見て検討した場所もあります。韓国など外国の人たちも、モンゴル大使館に直接アピールしたり、モンゴルに代表を送って説得してほしい。私たちもやるが、継続してやり続けたいといけません。

シオルテさんの講演の質疑応答の時間に、このような意見や質問がありました。

・カナダから来た、年配の韓国人の人権活動家の方の意見

「金大中氏も盧武鉉氏も、人権問題について一言も言いません。平和維持に邪魔だと思っているからです。けれども、人権問題の解決なくして、和解はありえません」

・脱北者の人の質問

「北京オリンピックに向けてアメリカがなにかできないでしょうか。中国に圧力をかけてほしいのです。韓国には今、労働党がいるみたいですが、韓国ではどう訴えていったらよいのでしょうか」

シオルテさんの答え

「まず、脱北者自身が人権問題の生きた証拠です。各議員一人一人に直接会いに行ってロビー活動して訴えてください。

オリンピックについては、中国に訴えるよりも、オリンピック委員会に方針をかえるように訴えるべきです。中国はモラルをむしっていますから、オリンピック委員会のホームページに入って行ったりして訴えるのがよいです。また、北京と競った第二の都市に、4年後のオリンピックにまた立候補するよう訴えるのも手です」

*** 依藤の感想 ***

今回は、会場が国会や経済人会館で、朴党首もみえましたし、とてもよい展示会だったと思います。

シオルテさんの力強さに私も励まされましたし、他の方もきっとそうではないかと思います。黄ジャンヨブさんは少しお疲れの様子でしたが、ぜひ早く日本に来てくださったらよいと思いました。

さて、韓国では、政府が北の収容所や人権問題について全て情報をもっているにもかかわらず、市民がしらなすぎる気がします。今回、韓国の議員さんたちに訴えることが重要だと言う話ができましたが、一方で、NGOとして、個人的に韓国の人や世界の人に、北の問題について訴えていったらよいと感じました。政府が広く情報公開するのを待つ必要はないと思います。

個人的な韓国の友人たちからきいたことですが、韓国の人のなかには、ブッシュが再選されて、北朝鮮が本気で攻めてきたらどうしようと、心配している人が多いようです。国や社会の指導者の立場にある大人の人が、結構本気で戦争を心配していて、それを若い人に言うため、若い人も怯える人が少なからずいるようですが。。。私の友達も、本気で心配している人がいました。

ですので、東アジアの現状やアメリカなどの政府の政策について（ホークさんは、アメリカは北を攻撃する予定はなく、イラクの次はイランやシリア問題に乗り出すだろうとおっしゃってました）、韓国の人にも知ってもらえたらと思います。現状を知って、余計な不安を払拭できたら、人権問題についても取り組むことができるのではないかと思います。

なにかおきたら、外国からの投資が減るという心配も分かります。けれども、経済援助として送ったもので北朝鮮が武器を作ったり、韓国資本の工場で自己批判を伴う強制的な労働が行われているとしたら、朝鮮半島の平和は守られるのでしょうか。

とはいえ、今韓国では、国家保安法の廃止についての議論、公務員の教科書の中身が主体思想と似ていると言う議論、主体思想を教える北の公式ホームページの廃止を巡る議論などあり、北朝鮮に対して強い態度で臨むべきだと考える人も沢山いると思います。北がどういう国か、若い人や子供に教えておくべきだという社説もありました。

草の根レベルで、韓国の方たちと情報を交換し合って力を合わせていけたらよいです。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.201]]]]]]](2004.12.27)

本日の記者会見の内容

本日 2 時からの記者会見の折の発表文書は以下の通りです。大量で読みにくく、申しわけありませんが何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

(1) 第 11 次発表 特定失踪者 0 番台リスト

このリストは「拉致の可能性が完全には排除できない失踪」、いわゆる 0 番台リストです。1000 番台リスト（拉致の可能性の高い失踪）についての発表は本日は行いません。

羽生 弘行（はぶ ひろゆき）(当時 38 歳)

生年月日 : 大正 6 (1917) 年 11 月 5 日

失踪年月日 : 昭和 31 (1956) 年 10 月 23 日

性別 : 男

当時の身分 : 半農半漁

当時の居住地 : 鹿児島県熊毛郡屋久町栗生

失踪場所 : 鹿児島県熊毛郡屋久町

失踪当時の状況 : 屋久島の栗生川の船着場から漁船で海上へ出たあと、他の乗組員 4 名とともに行方不明。

斉藤 幸（さいとう おさむ）(当時 21 ~ 22 歳)

生年月日 : 昭和 11 (1936) 年 5 月 6 日

失踪年月日 : 昭和 32 (1957) ~ 33 (1958) 年頃

性別 : 男

当時の身分 : 発電工事会社の経理

当時の居住地 : 東京都港区

失踪場所 : 東京都港区

失踪当時の状況 : 「北海道で国籍を買い受け、海外へ行く」などと書かれた手紙が送られてきて以降、行方がわからなくなった。

高松 康晴（たかまつ やすはる）(当時 20 歳)

生年月日 : 昭和 16 (1941) 年 3 月 23 日

失踪年月日 : 昭和 36 (1961) 年 11 月 1 日

性別 : 男

当時の身分 : 会社員

当時の居住地 : 神奈川県鎌倉市

失踪場所 : 鎌倉市材木座海岸付近

失踪当時の状況 : 会社に就職が決まり、東京の本社で辞令をもらって鎌倉の寮に入った。その翌日の夕刻、他の同僚 2 人と材木座海岸の浜辺へ散歩に出て、3 人で話をしているうち、高松さんひとり、そこを離れて行った。その後、

寮にも戻らず。昭和 36 年 12 月「週間読売」で、2 週間前に失踪した他の男性とともに、記事になっている。

岩佐 寅雄（いわさ とらお）（当時 35 歳）

生年月日：大正 15（1926）年 12 月 8 日

失踪年月日：昭和 36（1961）年 12 月 20 日

性別：男

当時の身分：魚屋の店員（板前も出来た）

当時の居住地：神奈川県鎌倉市

失踪場所：神奈川県鎌倉市の魚屋から

失踪当時の状況：勤めていた店の人に黙っていなくなった。その後、横須賀のいところが四方八方探し回ったが消息はつかめず。（いここは数年前に死亡）

馬場 昌一（ばば まさかず）（当時 18 歳）

生年月日：昭和 19（1944）年 12 月 13 日

失踪年月日：昭和 38（1963）年 6 月 4 日

性別：男

当時の身分：大学 2 年生（機械科）

当時の居住地：東京都日野市

失踪場所：東京都日野市の自宅から出たまま

失踪当時の状況：失踪当日朝、両親とは顔を合わせている。そのまま行方がわからなくなった。姉に「新宿でアルバイトがある」と話していた。お金も衣類も持ちだした様子はない。

福本 勝利（ふくもと かつとし）（当時 22 歳）

生年月日：昭和 47（1972）年 6 月 16 日

失踪年月日：平成 7（1995）年 5 月 11 日

性別：男

当時の身分：会社員

当時の居住地：滋賀県長浜市

失踪場所：滋賀県虎姫町の会社から

失踪当時の状況：兵庫県高砂市の家の仕事（漁業）を手伝っていたが、手術をして、休むことも多かった。そのため本人が求人広告を見て京都に出向き、そこで紹介され滋賀の会社へ行く。出勤初日の昼にいなくなった。会社のロッカーにかばんの中身がそのままに残っている。

加藤 鈴勝（かとう すずかつ）（当時 55 歳）

生年月日：大正 11（1922）年 2 月 1 日

失踪年月日：昭和 52（1977）年 10 月

性別：男

当時の身分：設計技師

当時の居住地：愛知県名古屋市

失踪場所：愛知県名古屋市の自宅から

失踪当時の状況：失踪した年の秋、加藤さんから次女京子さんに弾んだ声で電話があった。その1～2ヶ月後に失踪。事件ではないかと警察に届けを出した。その結果、空き巣に何度も入られており、3人分ほど土足の跡があったが、車、免許証、実印、通帳、鍵、衣服、履物あり、下着、素足で体が消えた状態だった。鍵付きのタンスがこじ開けられていて、中にあったはずの株券が1枚も無くなっていた。

野田 福美(のだ ふくみ)(当時47歳)

生年月日：昭和9(1934)年11月5日

失踪年月日：昭和57(1982)年10月28日

性別：男

当時の身分：漁師

当時の居住地：島根県八束郡美保関町

失踪場所：北海道礼文島沖

失踪当時の状況：北海道礼文島沖でイカ漁の最中。当日、海は穏やかで無線僚船と10時半頃まで交信のあと消息不明。電話で「漁は終わりにして帰路に着く」と告げていた。お土産、燃料代の精算も袋に入れて船に残されていた。サンダルが片方づつ違うものが残り操業状態のまま発見される。10艘の船団を率いる団長として5年目、何度と無く時化に遭遇して人命救助の経験もある。海保のヘリや、礼文島住民、僚船が丸一日捜索して見つからず荒天になり捜索打ち切り。

後藤 美香(ごとう みか)(当時30歳)

生年月日：昭和46(1971)年7月13日

失踪年月日：平成13(2001)年9月13日

性別：女

当時の身分：家事手伝い

当時の居住地：東京都江東区

失踪場所：東京都

失踪当時の状況：東京都江東区の自宅を出たまま行方不明に。

角田 麻衣(つのだ まい)(当時20歳)

生年月日：昭和57(1982)年2月12日

失踪年月日：平成14(2002)年11月13日

性別：女

当時の身分：大学3年生

当時の居住地：東京都三鷹市

失踪場所：東京または山梨

失踪当時の状況：11月11～13日は学校を休んでいたが、それまで連絡なしで学校を休んだことはなかった。13日朝7時頃、兄が起きたときはすでに姿がなかった。失踪後の11月13日、山梨県で携帯電話の電波を交換機がキャッチするも、その後は交信無し。

(2) 特定失踪者問題調査会 これまでの主な活動

04.12.27 現在

平成15(2003)年

- ・ 1月10日 特定失踪者問題調査会発足。0番台リスト(第1次)40名を公開
- ・ 2月10日 0番台リスト(第2次)44名を公開
- ・ 2月12日 内閣府・警察庁・公安調査庁・海上保安庁に要請(28日回答受領)
- ・ 3月26日 ポスター(第1版)作成・配付
- ・ 5月6日 ポスター(第2版)作成・配付
- ・ 5月8日 失踪者家族に対する説明会
- ・ 5月30日 0番台リスト(第3次)62名を公開
- ・ 7月30日 0番台リスト(第4次)21名を公開
拉致の可能性の高い失踪者(1000番台リスト)6名を発表(第1次)
- ・ 9月24日 0番台リスト(第5次)15名を公開・1000番台リスト
(第2次)6名を発表
- ・ 10月24日 特定失踪者家族支援委員会(委員長真鍋貞樹・事務局長杉野正治)
設立
- ・ 11月1日 ポスター(第3版)作成・配付
- ・ 11月21日 0番台リスト(第6次)5名を公開・1000番台リスト(第3次)
4名を発表
- ・ 11月27日 1000番台リスト家族、支援室及び拉致議連へ要請活動
- ・ 12月30日 公式ホームページ設置

平成16(2004)年

- ・ 1月29日 1000番台リスト13名(既に告発・告発済みの3名を除く)に
ついて一斉告発・1000番台リスト16名について、日弁連に人
権救済の申立て
- ・ 3月10日 0番台リスト(第7次)7名を公開・1000番台リスト(第4次)
2名を発表
- ・ 4月30日 ポスター(第4版)作成・配付
- ・ 5月1日 失踪者家族に対する説明会
- ・ 5月21日 小泉総理訪朝に対し、1000番台リスト失踪者による緊急集会・
要請行動。
0番台リスト(第8次)6名を公開・1000番台リスト(第5次)10
名を発表

- ・ 7月29日 0番台リスト(第9次)2名を公開・1000番台リスト(第6次)3名を発表
- ・ 8月 2日 1000番台リスト(第7次)1名(藤田進)を発表
未認定拉致被害者の認定を求める要請書を政府に対して提出
(調査会、家族支援委員会、法律家の会)
- ・ 9月17日 0番台リスト(第10次)6名を公開・1000番台リスト(第8次)1名を発表
- ・ 9月27日～10月1日
1000番台リスト15名について、刑事告発を行う。
- ・ 10月29日 第3回日朝実務者協議を前に、家族有志により外務省に要請活動
- ・ 11月 2日 国際シンポジウム「北朝鮮に人権を！」(主催・法律家の会)を共催
- ・ 11月 9日 家族有志が家族会メンバーなどとともに官邸前・街頭でアピール行動
- ・ 12月11日 大阪市内で関西地区特定失踪者家族懇談会を開催
- ・ 12月27日 0番台リスト(第11次)10名を公開

現時点での公開者	213名
うち1000番台リスト	33名
0番台リスト	180名
これまでの公開者	218名
うち国内での消息が確認された人	5名(生存4名、死亡1名)
非公開者	約211名
うち国内での消息が確認された人	6名(生存6名)
現時点で調査会にある特定失踪者リストの総数	約420名

(3) 報道関係の方々宛文書

平成16年12月27日

報道関係者各位

特定失踪者問題調査会代表
荒木和博

お礼とお願い

平素報道関係各位のご協力に心より御礼申し上げます。

さて、調査会もまもなく設立2周年を迎えます。この間のご協力に心より感謝申し上げますとともに、早期の拉致問題解決のため、皆様のご協力を依頼申し上げます次第です。

本年は藤田進さん、加瀬テル子さんの写真が報道関係者の尽力により公開され、「拉致被害者は政府認定者だけではない」、あるいは「政府認定者の拉致被害者は全体の一部に過ぎない」という現実を多くの人々が認識したという意味で画期的な年でした。

もとより、政府認定の15人も、ほぼ半数の7人、すなわちアベック拉致の6人と横田めぐみさんについてはジャーナリストが見つけたケースです。私は8年前から救出運動に携わり、報道と世論の力がいかに大きなものかを実感してきました。

藤田進さんの写真以来、私たちのところにはすでに100人を越える人々の写真が持ち込まれています。これらのすべてが本当の意味の拉致被害者であるとは言えないと思いますが、少なくとも何人かの写真はやがて特定失踪者と一致する可能性がありますし、合致しなくても、調査会のリストに載っていない失踪者であることもありえます。今後情報は更に質量ともに増大し、写真のみならず音声、映像情報や手紙などが出てくることも考えられます。場合によっては拉致被害者本人が脱出してくれるかも知れません。

それでも、現在の政府の方針は従前通りの「警察による捜査」「官邸での認定」「外務省の交渉」という枠をほとんど出たものではありません。現在問題となっている政府認定者の情報の問題も、本来はとっくに制裁をもって解放を迫っていただければならないはずですが。

この状況は変えなければなりません。拉致がいかに大規模かつ長期間にわたって行われてきたかを国民に明らかにし、政府が一刻も早く、本当の意味で「救出」のために動かなければなりません。しかし、政府は拉致をあくまで小規模な、個別の問題に矮小化しようとしています。

これを覆すには報道の力が必要です。もちろん、皆様の使命はあくまで「報道」であって、プロパガンダではありません。しかし、現実には、これまでの日本における拉致問題の進展には報道の力は必要不可欠なものでした。ぜひ、皆様自身が救出運動の最前線に立っているお気持ち持ち続けていただきたいと希望する次第です。

調査会の活動は事の性質上どうしても秘密にせざるを得ない部分があり、また、例えば写真がマスコミから持ち込まれた場合は、その社に一定の配慮をすることはご理解いただきたいのですが、私たちも、報道の力を認識し、自分たちに不利な情報も含め、可能な限りの情報公開はしていくつもりです。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

以上

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.202]]]]]]](2004.12.28)

前号ニュースの一部訂正

ニュース 201 号の特定失踪者ゼロ番台第 11 次リストの中で、失踪者高松康晴さんについて、失踪場所を「鎌倉市材木屋海岸付近」としていましたが「鎌倉市材木座海岸」の間違いです。また同じく高松さんの失踪当時の状況について、「週間読売」とあるのは「週刊読売」の誤りでした。お詫びして訂正します。

月刊「正論」に特定失踪者問題の特集掲載

月刊「正論」最新号（2 月号）には特定失踪者問題の特集が掲載されており、調査会役員 5 人が次の論文を寄稿しています。ご一読下さい。

「北朝鮮に翻弄される日本の ” 異常性 ”」 代表 荒木和博

「なぜ新たな拉致被害認定をしないのか」 常務理事（家族会事務局次長） 増元照明

「失踪者多発『大町ルート』を追う」 専務理事 真鍋貞樹

「『1984 年の空白』を推理する」 常務理事 杉野正治

「社会党議員の発言が教える国家の意思」 理事 岡田和典

以上の内、荒木・杉野の論文では視点は異なりますが、どちらも山本美保さんの事件に言及しています。また、「S A P I O」最新号（1 月 5 日号）には代表荒木の論文「自衛隊を使わずに拉致被害者を放置していることこそ憲法違反である」が掲載されています。あわせてご一読いただければ幸いです。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.203]]]]]]](2004.12.31)

一年間お世話になりました

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

皆様には本年 1 年間、大変お世話になりました。あらためて御礼申し上げます。

今年は特定失踪者問題においても画期的な年でした。藤田進さん、加瀬テル子さんの写真が明らかになり、多くの方々に「拉致は政府認定者だけではない」ということを認識していただけるようになりました。

お二人の写真は TBS が入手したことで明らかになりましたが、調査会にはその後報道各社を中心に 100 人以上の「日本人拉致被害者」と称される人々の写真が持ち込まれ、現在それぞれの社とも連携しながら確認作業を行っているところです。すべてが拉致被害者ではないと思いますが、何人かは遠からず確認できるものと思います。

また、私の実感ですが、今年は拉致問題に対する政府機関の対応も随分変わってきたように思います。首相官邸の姿勢はあまり望ましい状況とは言えませんが、個々の官庁は拉致問題全面解決の方向に少しずつですが動き始めているように思います。ちなみに、経済制裁に反対する北朝鮮擁護勢力、有り体に言えば一部左翼が小泉首相を評価しているのはちょっと滑稽な図式です。

しかし、流れは間違いなく出来てきています。そして政府機関であれ、報道関係者であれ、あるいは一般市民であれ、目に付かないところで色々な方々が動き、その流れを作ってくれているのは本当にありがたいことです。救出運動の末端にいる者として僭越ではありますが、それらの全ての方に心から敬意を表する次第です。

流れが出来てくれば、この国の力は加速度的に大きくなります。それは日本人拉致問題の完全解決のみならず、他国民拉致被害者、在日朝鮮人帰国者やその日本人家族、そして独裁体制のもとで呻吟している 2000 万の北朝鮮国民に幸せをもたらすことができるようになると思います。

来年はさらに急激な展開があるでしょう。しかし、様々なことが明らかになってくれば、決して嬉しいニュースだけではないかも知れません。無事でいてくれたとしても、工作員として日本に潜入したとか、外国で活動していたとか、北朝鮮国内で日本に対する有害活動に従事していたなどの情報が出てくるかも知れません。

しかし、私たちはそれらすべてを受け入れなければならないでしょう。従わなければ命を奪われかねない状況の中で、何をしたとしてもそれは一種の緊急避難であり、問題とすべきものではありません。逆に、そういうことを強いる結果となったのは拉致を避けなか

った、現在日本国内に居住する私たちの責任です。それは警察がどうか、自衛隊がどうかといった限定された話ではなく、国民全体の責任だと言えるでしょう。

もう二度と拉致によって人生をめちゃめちゃにされる人が出ないように、そして、苦しみ続ける家族が出ることのないようにするためには、今拉致されている人々は全て、いかなる手段を使っても取り返さなければなりません。特定失踪者問題調査会も微力ながら事実をもって事態を打開すべくがんばります。

あらためて来年のご協力をお願いし、ごあいさつとかえさせていただきます。

よいお年をお迎えください。

参考情報

以下は北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会（守る会）の依藤朝子さんからの情報です。ご参考までお伝えします。

皆様、こんにちは。北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会からのお知らせです。

来る2月に、ソウルで北朝鮮の人権問題に関する国際会議が開かれます。その中で、学生論文大会があります。皆様どうぞ、ふるってご参加ください。

論文コンテストの詳細と、会議の概要について下に記載いたしましたので、ご覧ください。

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会

論文コンテストのお知らせ（すばらしい賞が出ます）

来る2月14日から16日にかけて、ソウルで第6回北朝鮮人権・難民国際会議が開かれます。会議では、プログラムの一つとして論文コンテストが開かれることになりました。（会議につきましては、韓国の北韓人権市民連合 Citizens' Alliance for North Korean Human Rights のホームページに詳細が載ります）

各国の大学生及び大学院生の皆さん、参加してみませんか。

賞：優勝者は、北韓人権市民連合（NKHR）の代表とともに、ジュネーブの国連人権委員会に参加する資格を得ます。航空券、宿泊費、食事は北韓人権市民連合が負担いたします。優勝者はロビー活動に参加し、会議の会期中に北朝鮮の人権問題について発表する機会を得ます。

課題：下の中から一つを選んでください。

- ・北朝鮮の人権を改善するために、GO（政府機関）、NGO 及び国際社会の役割と活動をより効果的に進められる方法にはどのようなものがあるか。
- ・アジアにおける法の支配、法治と人権の保護及びその促進において、北朝鮮の人権運動はどのような意味をもっているか。また、北朝鮮市民の人権を保護するためにアジアの次元においてはどのようなメカニズムが必要であるか。
- ・北朝鮮の人権状況の改善にむけた韓国政府と韓国国民の役割はどのようなものであるか。（立法、行政、司法における政策を提示してください）
- ・脱北者を含め、特に危険な状況下におかれている北朝鮮住民（女性、子供、「政治犯」など）の人権蹂躞状況を提議し、こうした人たちの権利を保護するための方法を説明せよ。

分量：A4 シングルスペースで 10 枚以上。

1、2 ページの長さの要約を含む。

言語：韓国語または英語

締め切り：2005 年 1 月 10 日

（最初に、第一次選考があります。日本の方はまず、日本文で送ってください）

送り先：郵便番号 202 - 0011

西東京市泉町 3-15-5 小川晴久宛

Tel/Fax 0424-23-3972 webaien@jcom.home.ne.jp

（選考にパスした場合、ご本人に英文または朝鮮（韓国）文を用意していただくことあり）

連絡先：北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会

国際部 依藤朝子

tomoko_yorifuji21@hotmail.com

北朝鮮の人権と難民に関する第 6 回国際会議

開催地：ソウル

* 2005 年 2 月 14 - 16 日

* 西江大学 聖イグナチウスハウス（ソウル）

* 主催：北韓人權市民連合
韓国人権法学会
延世大学大学院国際研究科
ハンドンインターナショナルロースクール
西江大学大学院国際研究科
梨花女子大学大学院国際研究科
高麗大学大学院国際研究科
淑明女子大学大学院国際研究科

* 共催 国立民主主義基金
朝鮮日報

第1セッション：北朝鮮人權問題の新しい局面

北朝鮮人權問題の根源

国連人權機構の現況

アメリカの北朝鮮人權法案（2004年）の意義と見通し

第2セッション：北朝鮮難民に関する問題

北朝鮮難民の現状と関係諸国の政策

北朝鮮難民をめぐる戦略

旧ユーゴスラビアの難民危機と朝鮮半島情勢

第3セッション：北朝鮮の子供の権利の侵害

北朝鮮の子供が直面している人權侵害

朝鮮民主主義人民共和国がCRCに提出した第二次報告の分析

北朝鮮の子供と青少年の証言

第4セッション：北朝鮮の女性に対する差別と虐待

北朝鮮の女性に対する差別

人身売買の現状とその根絶にむけた戦略

女性脱北者の証言

第5セッション：北朝鮮の人權状況の改善策

韓国政府が取るべき態度

第61回人權委員会にむけた戦略

ヘルシンキプロセスによる北朝鮮の人權状況の改善

第6セッション：青少年にできることとは

発表（論文コンテスト）

表彰